

消化器内科の専門外来として「便秘外来」を担当 排便回数が少なくても便秘とは限らない



国立病院機構函館病院消化器内科医師

津田桃子

国立病院機構函館病院(加藤元嗣院長)は今年5月、消化器内科の専門外来として「便秘外来」を開設した。担当する常勤の専門医は4月に北大病院から着任した津田桃子医師だ。診察はC丁やエコー検査、大腸カメ

ラなどの画像評価を加えながら、患者一人一人にあった内服の調整など、専門的な治療を行っている。津田医師は札幌市生まれ。「外科医の父の影響を受けて、小学生の高学年の頃から医師を志すようになりま

した」。秋田大学医学部へ進学。「最初は外科医(一般外科)を目指していましたが、体力的な問題も考慮して消化器内科に決めました」。卒業後は北海道大学病院と市立札幌病院にそれぞれ1年間、その後は函館中央病院に3年間勤務した。函館では2人を出産、現在は10歳、8歳、5歳の3人の子どもの母親でもある。「北海道大学大学院医学研究科内科学講座消化器内

科学教室の内視鏡グループに所属。当院の加藤元嗣院長や消化器科の関部克裕部長の下で消化管内視鏡検査と消化管内視鏡治療を担当してきました。今回の移動は尊敬する加藤院長から誘われたことによるもので、道内の病院では便秘外来は珍しく、それだけに新しい挑戦だと思っています」。

「排便回数の少ないことを悩んでいる人が多いのですが、週に最低1回の排便がある場合は便秘とは限らないことも多いです。受診する目安の一つは残便感の有無にあります」。函館は市販の下剤を乱用している人が少なくないと津田医師は言う。「下剤を使用している場合ですが、本人は排便していると思っても便の半分が残るようになります。下剤を中止したらスッキリと改善した人もいます」。

便秘を改善する薬は自然な排便を促す上皮機能変容薬など、昨年から新たに4種類が登場している。「薬物相互作用が比較的少ないため、他剤を併用している高齢者などでも使いやすい薬など、これまでにない効果が認められるケースもあります。私も便秘症なので、新薬を順番に試してみるので、その効果などを研究中です。便秘症は中年齢では特に女性に多いのですが、水分摂取量や女性ホルモン、大腸がんなどが関係していることがあります。若い女性も多く外来を訪れていますので、気になる症状がある場合は気軽にご相談ください」。

便秘外来は毎週火曜の午後1時から5時30分(受付は午後1時~同3時30分)。問い合わせは同院電話0138・51・6281へ。

つだももこ
平成19年秋田大学医学部卒業、北海道大学病院、市立札幌病院、函館中央病院、北海道大学病院、北海道大学病院客員臨床助教を経て、平成31年国立病院機構函館病院に勤務、平成30年北海道大学大学院医学研究科修了。

日本内科学会総合内科認定医、日本消化器病学会消化器病専門医、日本消化器内視鏡学会専門医、日本消化器学会胃腸科専門医、日本ヘリコバクテリ学会フェロシコロリ認定医、感染症認定医、日本カプセル内視鏡学会認定医。